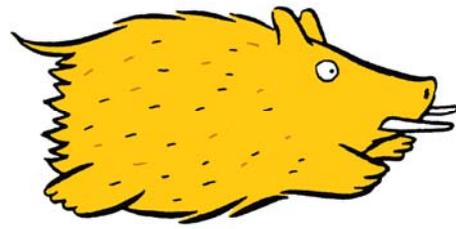




あなたアゾン隊じゃあ無いのか



アドマチックななしま編 by うさお

子供の頃に覚えている心象と今の風景がかけ離れていることがよくあるもんですよね。子供の頃は多感なのだ。大人になると鈍感になるのだ。今のうさおはあえて鈍感を装っているけどね。ボケじゃなくてさっ。演技ですってば・・・。

さて、そんなうさおのボケがテーマです。子供の頃は結構遠いと思っていたところが、意外に近かったり、近いと思っていたところがあまりに歩くので辟易したり、どうも年齢をとると物差しが変わりますよね。「ななしま」の町がそうだったんです。

幼い日の銭湯の絵看板には、駿河湾や富士山の絵があり、下のほうにご近所のお店の看板が並んでいました。「親父が作って息子が安売り！」とは陶器屋の看板。

そんな看板に「ななしま商店街」の文字が。「ななしま」というネーミングは何故か郷愁をそそります。「ななしま商店街」は、横浜の台所、大口商店街につながっています。大口商店街や曙商店街には映画館やパチンコ屋さんがあり、日本鋼管や旭硝子、東芝の職工さん達が訪れる活気のある町でしたが、「ななしま商店街」はいつもひっそりとして、夏祭りもとてつもなく寂しかったと思います。

大口商店街や六角橋商店街は戦後の闇屋の時代に隆盛を極めた商店街で、とりわけ物価が安く、地元だけでなく他の町からの集客がありました。その大口商店街に曙商店街という枝の商店街があり、曙通りの終わった先に更に「ななしま商店街」がありました。

最近の大型店舗の進出でこれらの商店街の凋落が激しい中、「ななしま商店街」はことさら寂れ行く商店街の最たるものと言えます。その分、郷愁を誘う何かがあるってな訳ですね。

お店の数は25店舗。この通りに何と画廊があるとかがアドマチックでしょう。





今回は特別に何か意味や意義がある訳じゃありませんよ。戦争遺跡でもなく、廃線遺跡でもなく、土木遺産でもない。こんな町がここにあって、今に無くなっちゃうかもしれないから、記憶を残しておこうと言う「新庄剛志」的レポートなんです。

ここが「ななしま商店街」の入り口です。別に何か仕切りがある訳じゃありませんけど、電柱の表示にそう書いてあります。

七島不動尊、薬王寺については、後の方でご報告しますね。

角のお店は「ほか弁や」さん。

昔は無かったね。

通りの感じはこんなもん。お店の看板が極端に少ないんで、下町の住宅の道かなって思っちゃうよ。

歩いている人も、走っている車も止まっている車も極端に少ない。

子供連れで歩いても交通災害に遭いにくい商店街だ。



商店街を歩いてすぐに、「ななしま稲荷」のお神社さんがある。2月の二の午の日にはご縁日が開かれるとか。そんなに立派ではないけれど、貧弱でもない。売り物になるかと言うと…微妙だ。

けれども鳥居の数は3基もあり、立派は立派です。参道もちゃんとし



ているし、右側の住宅はお稲荷さんに付属したもので町内会会館の役も果たしているようでした。





ここのお狐さんは変わっています。  
腕に大きなカタツムリを付けたもの  
や、子狐を抱きしめているものです。  
この子狐は叱られてこれからお尻  
を叩かれるのでしょうか？



なにせ「ななしま」の売りのひとつがここなので  
詳しく説明をさせて頂きました。でも何時から「七  
島」から「ななしま」に町名変更したんでしょうね。

町の気合は凄く感じますね。

もうひとつの売りが、「画廊」です。

どうやら志のある方なら書画、写真、工芸など自  
由に作品を出展できるようです。お金もとらないよ  
うですが、見に来る人も居ない按配です。

中には椅子も机もあり、散歩や買い物の途中で一  
休みってなことが出来そうです。文化っぽいですね。  
この辺りの地価が安いのか、つぶれた店を町内で上  
手く切り回しているのか、**うさお**の住んでいる下町よ  
りは人情の厚そうなところですよ。

張り紙には出展希望者は「さがみや」さんか「丸  
杉園」さんにお申込みくださいとありました。



「さがみや」さんです。あいにくのお休みでした。

元はお米屋さんか、酒屋さんなんでしょうね。コンビニエンス・ストアって書いてありましたが、今風な 24 時間営業ではなく、アットホームな週末お休みのお店みたい。

儲かるのかなあ？



もう一方の町の実力者、「丸杉園」さんです。こちらはお茶屋さん。活気が良く「本日特売日」の旗が…。

でも取材日は日曜日でしたが街歩く人影も無く、主婦を相手の店なのでウィークデイのみの営業で生活していけるのかなあ。町が無くなっちゃうのは寂しいぞ。



結構な広さの画廊で、以前は衣料品店であったのではと思わせる造りです。今回は油彩が飾られていました。女性の画家さんで年齢は判りませんが、風景画ばかりですのでお年を召した方かなとお見受けしました。

ほかのお店はこんな風です。  
小洒落たトップモードの「TIOS」。  
和菓子屋さん、床屋さん。  
町内灯の「ななしま通り」の看板。  
買入れ屋さん？何を？  
このときは珍しく4人も人が通っておりました。私達を入れると6人だよ。





**Cacco** がどうしても残しておきたい世界遺産だとのたもっていたのが、この八百屋さんと先につながる薄暗い路地の靴屋さん。靴屋の「ふじや」さんって店開いているのかい？

どうでもよいのだが「ななしま商店街」のお店の名前が「ひらがな」のものが多いいね。

このラーメン屋さんは改装したてのように見えるが、建屋は古いね。

でも、ラーメンと餃子が異常に安い「寺尾家」で食べちゃったよ。





ちなみにラーメン 300 円、餃子 6 個 150 円ですよ。なんとも安い安い。餃子はしかもはりはりのぱりぱり、旨い〜。でもここは「ななしま商店街」ではなくて、曙商店街の中です。

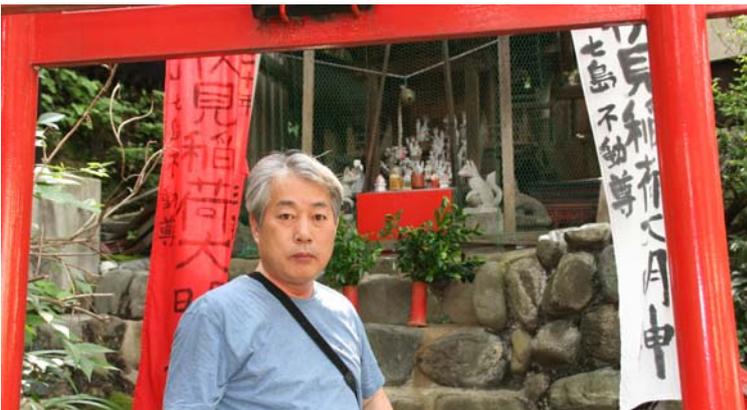
で、次に行ったのが「七島商店街」の入り口近くにある「七島不動尊」。

不動尊って言うとお寺さんか？「成田山」って石柵に彫ってあるし、でも、如何見ても神社さんにはしか見えない。小高い丘に参道があり、鳥居が囲む。鳥居の参道の上の鉄骨は駐車場の鉄骨だ。以前は入口に成田山七島不動尊の看板が在ったらしい。

奥の院にはほとんどお狐様が祭つてある。お稲荷様だろう、これは。

「ななしま稲荷社」と混同するから不動尊って付けたんじゃねいの。

でもここのお狐さんは小柄ながらも細工が行き届いており、毛筋が克明に彫られていた。悪戯されるのを嫌つてか、金網で囲ってあるのが興醒めだ。この参道の脇に池があり亀さんが何匹も居た。さすが浦島太郎の伝説の地。亀は多い。





結局、不動尊、成田山、伏見稲荷、水子地蔵と良く意味の判らない神社さんではありました。



医光山薬王寺さんはその直ぐ近くにある真言宗のお寺さんです。綺麗な佇まいで夏の涼やかな風が木立の中を通っていきます。

四国八十八ヶ所霊場の第二十三番所に医王山無量寿院薬王寺とそっくりなものがありますが、入り口の碑文には「東国八十八箇





所第十七番薬王寺」となっています。分寺なのでしょうが？中に入ると大きな銀杏の木陰に休息場が設えてあり、五重塔のミニチュアが在ります。



次に訪れたのが本照山連法寺さんです。日蓮宗のお寺さんなのですが、ここは浦島伝説の残る有名な



伝供養塔

流れた。父母恋しさに太郎は乙姫様に暇を告げ、玉手箱と観世音菩薩を貰った。故郷の浜に帰ると、見知らぬ人ばかり。玉手箱を開けると、白い煙が出て太郎は白髪の老人になりました。ここまでは俗説と同じですが観音様を貰ったところが微妙に違います。

観音様と補陀洛伝説、浦島伝説と徐福伝説については章を改めて述べさせてもらいます。

さて父母が武蔵国白幡の丘に葬られていると聞き、子安の浜を訪ねます。墓の傍らに庵を結んで菩薩像を安置し、父母の菩提を弔いますが、この寺が「観福寿寺」ですが明治5年に火災により廃寺になり、「日蓮宗蓮法寺」に浦島太夫・太郎父子の供



白幡の碑 蓮法寺

ところでは。

横浜の神奈川地区に残る浦島太郎伝説は若干他の地方のものと異なります。

相模国三浦の里に水江の浦島太夫がおり、丹後国に赴任していた。息子の浦島太郎は二十歳の時に、浜辺で子どもらにいじめられていた亀を助けた。助けた亀に連れられて竜宮城へ行き、乙姫様のもてなしを受け、いつしか3年の歳月が



顕彰歌碑

養塔(上の写真)があります。このほかに「亀化大竜女の石像」があります。

以前「井戸」の稿で紹介した「浄土宗慶運寺」に聖観世音菩薩像が祀られています。

蓮法寺さんのお寺の紋は日蓮宗とあって、井桁に橘ですが流石、浦島の里だけあつ





て、亀の紋様です。門に刻まれていた文様の方がはっきりしていますの、これをご覧ください。波の中に泳ぐ亀、菊花弁(?)に卍か?

亀サンの目がなぜか可愛い。いや、手が可愛いのかも。ともかく、出色の出来。



なにせ急な傾斜の浦島の丘の上に建つお寺さんだから敷地の確保が大変厳しい。

しかし、小洒落た感じで石庭も造ってあり、取材の日は大変暑かったが爽やかな風が通り一服の涼茶を頂いたよう。

でも **Cacco** はここまで上がってくる階段がきつくて門のところでダウンしていました。

遠くに横浜のビル群が望めるところが、ご愛嬌だ。由佳ちゃんちほどではないが、鬼瓦も凝っている。





「ななしま」を北の方に向かうと横浜創英高等学校があります。昔は京浜女子高等学校でしたが現在は共学で名前が変わりました。

混同していたのですが、京浜女子高は大口と鶴見にあるものと思っていましたが、この近い地域の中に3校が混在していたのです。

ちなみに現大口駅は昔の日大付属高校だったんだそうですよ。

大口に在った京浜女子高のひとつは横浜創英高等学校と改称して今も大口にあります。

もうひとつの京浜女子家政専門学校は鎌倉に移り鎌倉女子大学に変わりました。

鶴見に在った京浜女子商業高校は白鵬女子高等学校に変わりました。

いずれもうさおが社会人になってからだと思います。

大口に在った「岩崎美術館」(トマソン隊で報告済み)はどうやら今は廃館になってしまったようなので、本当に文化っぽいものは大口にはありません。ですから入江川に甲羅干しをしていた亀君達をお見せします。

時たま亀君が泳いでいたのを見たことはあったのですが、こんなに沢山……。さすが浦島太郎の伝説の地だ。あれっ！さっきも言ったかな？

